便潜血「陽性」、精密検査を

がん社会を診る

中川 恵一

俳優の橋爪淳さん（64）とは長いお付き合いになります。

きっかけは、東京大学医学部の同級生で医師の和田秀樹さんが監督した映画「受験のシンデレラ」（2008年公開）でした。橋爪さんが友情出演、私が医学監修を担当しました。以来、たまに食事などをご一緒してきました。拙著「死を忘れた日本人」を愛読して下さってもいます。

橋爪さんは1982年、映画「海峡」で俳優デビュー。映画やドラマ、舞台で活動し、「非・演技塾」で後進の育成にも取り組む名優です。大河ドラマ「光る君へ」でも名脇役ぶりを発揮されました。

その橋爪さんから相談を受けたのは2月の初めでした。「便が細かったり、液状だったりする。血便もある」とメールが届いたのです。

5年前に受けた大腸がん検診（便潜血検査）は陽性でしたが、痔のためだと思い込み、大腸内視鏡検査は受けなかったそうです。

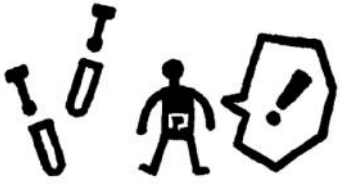

イラスト　中村　久美

便潜血検査は痔の出血では陽性になりにくいのですが、橋爪さんと同じく精密検査（大腸内視鏡検査）を受けない人が3割近くいます。橋爪さんは大腸がんを早期発見するチャンスがあったのに、みすみす逃したことになります。

およそ1年ほど前から便に血液がつくようになり、半年ほど前からは軟便や下痢になった、とのことでした。直腸のがんが大きくなって、便が通りにくくなると自然に軟らかくなるのは不思議です。

橋爪さんから相談を受けたのは、部下の南谷優成医師が制作した医療短編映画の主役をお願いし、完成した直後でした。進行がんを抱えながらの演技だったわけです。

相談内容から直腸がんだと確信した私は、すぐに東大病院に来てもらい、検査を進めました。

2月末に手術が行われました。リンパ節転移もある、進行した直腸がんでした。もう少しで遠隔転移が出るところだったと思います。

今は予防的に抗がん剤を服用してもらっていますが、再発もなく、体調も悪くありません。

ただ、5年前の時点で精密検査を受けていたら、内視鏡切除が可能だったかもしれませんし、抗がん剤も不要だったでしょう。橋爪さんも、がん検診による早期発見の大切さを痛感されています。

橋爪さんと私の対話を通じてがん検診の重要性などを考えるイベントが11月1日、東京大学の安田講堂で開催されます（事前予約制）。会場の安田講堂は登録有形文化財のシックでゴージャスなモニュメントです。「がんを知る教室　東大安田講堂」で検索して下さい。

（東京大学特任教授）